2021年度　社会福祉法人あゆみの会

オープンスペース‘AYUMI’事業報告

（生活介護事業・就労継続支援事業B型・日中一時支援業・短期入所事業）

施設長　　久永　洋

【生活介護事業】

・新規利用者2名（奈良東養護学校卒業生1名と奈良西養護学校卒業生1名）

・退所利用者2名

軽作業班

●利用者　11名（うち1名就労継続支援事業B型）

職員5名（パートタイム勤務も含む）※ジョブ班との兼任2名

作業活動においては、内職作業を中心に日々の作業活動を実施する。コロナウイルスの関係で昨年度は作業の資材が入りにくいという部分はあったが、今年度は、コンスタントに作業を続けながら内職以外にもあみあみや油取り生活等への作業に取り組む。空き時間には、余暇活動やグループ活動を組み合わせながらメリハリある活動を実施した。

手工芸

●利用者　9名　職員5名（パートタイム勤務も含む）※ワーク班との兼任2名

紙漉きを中心に日中活動を実施する。引き続き、和紙商品（papier）やフェルトボールの作成を行い、利用者の作業スキルの向上や積極性も伺えた。また、集団で過ごすことが難しい利用者には、環境調整を中心に個別のスケジュール、トークンボード、絵カード等のツールを使用しながら支援にあたり、集団活動と個別活動のバランスを図る。その中で楽しむ時間やリフレッシュする時間を作り、それぞれのペースを大切にしながら過ごせるよう日中活動を行った。

園芸

●利用者　11名　職員6名（パートタイム勤務も含む）

大幅な作業活動の変更はなく、畑作業や内職作業を中心に作業や活動を実施する。主に内職が中心となり、畑へ出る機会が少なくなってしまったものの、内職への取り組む姿勢は前向きな部分が多く見られた。作業の合間には、昨年度同様に施設周りのウォーキングで運動不足を解消したり、グループ活動も取り入れながら、楽しめる時間と作業のメリハリを意識し、日中活動、作業活動を実施した。

ワーク

●利用者　7名　職員5名（パートタイム勤務も含む）※手工芸班との兼任2名

　昨年度から3名の増員で活動にあたる。主に個別のスケジュールを活用し、日中活動を行う。また、チョイスボードで利用者自身が活動を選び、タイマーで活動の終わりや見通し、切り替えを行い、コミュニケーションカード等を使用し表出コミュニケーションを図った。活動としては、運動器具で身体を動かしたり、自立課題、ウォーキング、ポスティング等幅広く作業活動を行い、昨年度よりも能動的に取り組む姿も見られた。

ジョブ

●利用者　4名　職員5名（パートタイム勤務も含む）※軽作業班との兼任2名

　2021年度から新しくスタートする形となり、ワーク班に続く少人数での班構成とした。活動としては、個別のスケジュールを作成しながら、個別の活動（自立課題等）やグループ活動（音楽活動や内職作業等）に取り組みながら、必要に応じてコミュニケーションカードを使用し、利用者が能動的に活動へ取り組めるよう工夫した。新規利用者が2名いる中で、学校生活からの移行が難しい部分はあったものの、本人のペースに寄り添いながら、だんだんとあゆみの生活に慣れていけるよう配慮しながら日中活動を行った。その中で利用者が選択や決定する機会も多く見られ、能動的に取り組む姿が見られるようになった。

【就労継続支援事業B型】

・新規利用者　4名（奈良西養護学校卒業生2名、

2021年10月～他事業所より1名、11月～他事業所より1名）

・退所利用者　なし

秋篠パン工房

●利用者　11名（2021年4月～10月）　13名（うち1名軽作業班所属）

職員5名（パートタイム勤務も含む）

　利用者は、当初新規利用者2名増員し、年度途中にはさらに新規利用者2名の増員となった。（1名は軽作業班所属）コロナウイルスの関係で引き続き、収入の減少を受けながらも工夫しながらパンの製造やバリエーションを増やしていった。売り上げは昨年度同様、厳しい面があったが、定期的なご家族への注文販売や奈良市市役所内デイリーヤマザキへのパンの納品等で出来る限りでの売り上げ改善を図った。新しく4名の利用者も増えたこともあり、より一層活気も出て前向きに取り組む姿勢が伺えた。

　例年同様、作業の時間、休憩の時間とメリハリある作業を継続し、スキルアップ、働く意欲の向上に努め、取り組める作業の幅を広げた。

【日中一時支援事業】

主に一般就労者が利用する事業となり、仕事のない日の来所や相談事がある時等、利用者に合わせた事業を実施する。また、2021年度は2名ほど、日中一時支援事業利用を経由して就労継続支援B型の利用へ繋がり、体験利用としての役割も担う形となった。昨年度は、コロナウイルスの関係で通所を制限したり、通所を控えたり等で事業が難しい面も見られたが、今年度は継続して事業を実施する形となり、利用者がリフレッシュ出来るよう慣れ親しんだ職員や久々に会う仲間とふれあう機会とした。

【短期入所事業】

　コロナウイルスの関係で緊急対応のみの実施となる。（曜日不定）緊急対応としてもレスパイト等を要するものに限定し、感染対策をしながらの事業の実施となった。引き続き、コロナウイルスの関係で他施設の短期入所事業が利用出来ないといった状況もあり、ご家族、利用者にとっては厳しい面があった。

【総評】

　2021年度も、新型コロナウイルスの影響で、時短通所や自主休業等をしなければならない現状があった。何度か新型コロナウイルスの感染者も確認され、その都度、奈良市保健所、奈良市障がい福祉課とも連携を図り、PCR検査や抗原検査の実施を行なった。当初、新型コロナウイルスの感染者が確認された時に戸惑っていた初動もスムースに職員間で連携し、ご家族や各関係機関への連絡等、役割分担しながら協力して取り組めるようになった。

作業や活動においても、各班活動を中心に集団で集まるプログラムの自粛、各班活動場所での昼食、余暇活動の制限等を行い、活動場所や車両の消毒、手指消毒等出来る限りでの感染対策を実施し感染拡大防止に努めた。イベントや行事、地域交流、研修会等の自粛も続く形となってしまったが、各班で楽しめるようなプログラムの発案や実施等も行い、アイデアを出しながら利用者の楽しみに繋げていった。制限がある中でも楽しめる、支えあえる仲間の関係を築き、ひとつでも利用者の想いを引き出せるようコミュニケーションを図った。再び、新型コロナウイルスの対応に追われた1年となってしまったが、感染症対策に慣れた部分も多く、さらに新しいアイデアや工夫を創造する機会ともなり、利用者や職員も昨年度と比べると前向きに取り組む姿があった。

以上